

ES-8

「ヒトらしさ」運動発達からの考察



永島 智里(ながしま ちさと)

森之宮病院

略 歴

- 1984年 川崎医大付属川崎リハビリテーション学院 卒業
- 1984年 医療法人大道会ボバース記念病院 入職
- 1987年 ボバース小児成人 認定セラピスト資格取得
- 2000年(～2010) 学校法人玉手山学園 関西医療技術専門学校 非常勤講師 就任
- 2005年 ボバース小児領域国際認定インストラクター資格取得
- 2006年(～2016) 社会医療法人大道会(同一法人) 森之宮病院配属 部長 就任
- 2006年～ 日本ボバース研究会 理事 就任  
大阪府障害児者認定審査委員 就任
- 2008年～ 奈良リハビリテーション専門学校 非常勤講師 就任
- 2015年～ 大阪府理学療法士会 学術担当理事 就任
- 2016年～ 社会医療法人大道会(同一法人) ボバース記念病院配属 教育主幹 就任
- 2016年～ 大阪府障害福祉・介護給付不服審査委員会 委員 就任

講習会関連

- 2001年～ NICU 勤務者のためのショートコース 講師
- 2005年～ 小児領域8週間 認定基礎講習会 講師
- 2006年～ インフォメーションコース 講師 (森之宮病院 誠愛病院 北京リハビリテーション研究センター)
- 2012年～ 認定基礎講習会修了者のためのリフレッシャーコース 講師
- 2012年～ インフォメーション修了者のためのインフォメーション2 講師
- 2012年～ 重症心身障害児施設勤務者のためのショートコース 講師

近年の脳神経生理学は、脳神経基礎研究の発展や数多くの中枢神経疾患からより多くの発見がなされ、その進歩はめざましいものがあります。

人が人らしい運動や振る舞いを獲得する過程は、運動や自身の身体の認識、それを通じて外界・環境を認識することにより、効率的で自発的な調整がなされていると考える事ができます。

また、人が人らしくある特性、二足歩行、上肢道具の使用、言葉の使用が織りなす日常の活動は変化やストレスにさらされながら、さらに自由で効率的な機能を手に入れる熟練と老化への自浄作用でもあるようにも思えてきます。

そして子供達は受精卵よりすでにヒトとしての世襲財産を遺伝子の中に蓄えて、形を変え動きを変えそして、15年、20年をかけて成人となります。

ヒトとして二足支持歩行と特化した空間操作、道具の使用へと進化する中で変化してきた姿勢制御とは何か。感覚・知覚、認知とそれらとつながる身体図式がどのように姿勢・運動や運動学習に関係していくかを考える機会になればと思います。